

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	社会教育課長 荒木 正秀	電話番号	0852-22-5910
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	子ども読書活動推進事業		
目的	(1) 対象	①県内小中学校図書館（司書等） ②未就学児	
	(2) 意図	①小中学校図書館の充実と活性化を図る。 ②未就学児への家庭での読み聞かせなど、子どもの読書環境の充実を図る。	
事業概要	小中学校図書館の活性化を図るため、学校司書等の人材養成研修の実施や、小中学校向けの団体貸出の強化を図り、併せて市町村立図書館等と学校との連携を支援する。また、未就学児に対しては、家庭での読み聞かせの普及など、子どもの読書環境を充実させるために、全市町村の公共図書館等への絵本の寄託や、親子読書アドバイザーの養成などをする。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		55,500	55,600	55,700	
式・定義	小中学校への団体貸出冊数	実績値	55,400	51,696	42,956	38,397		冊
	達成率			93.10	77.30	69.00		%
式・定義	学校司書研修に参加した人数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
	目標値			580.00	585.00	590.00	595.00	人
式・定義	学校司書研修に参加した人数	実績値	575.00	632.00	752.00	683.00		人
	達成率			109.00	128.50	115.80		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	17,114	8,065
うち一般財源 (千円)	16,894	7,565

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・島根県では、子どもの読書活動を支援するため、家庭、幼稚園・保育所、学校図書館、市町村図書館等や読書ボランティアなど子どもの読書にかかわる様々な人と連携・協力し、読書環境を整備している。
- ・子どもの読書離れは改善傾向にある（島根県内の「家庭や図書館で全く読書をしていない児童生徒の割合」…小学生17.9%、中学生29.2%、H26年度）。
- ・平成26年度末における県内市町村の子ども読書活動推進計画の策定率（計画の有効期限切れ分を含まない）は42.1%であり、全国平均の69.1%に比べ低い。
- ・読書普及指導員及び親子読書アドバイザーの派遣回数は、平成26年度は262回であり、平成25年度の113回に比べ大幅に増加した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・家庭での読み聞かせの大切さについて講師として話をする「親子読書アドバイザー」については、養成講座を行い新たに33人が登録するとともに、既登録者を対象にステップアップ講座を開催し、資質向上が図られた。
- ・障がいの種類や発達段階に対応した種類の異なるバリアフリー図書や、県立図書館及び、西部読書普及センターに整備し、障がいを持った子どもでも図書館を活用できるようになった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・「家庭や図書館で全く読書をしていない児童生徒」がまだ一定の割合で存在する。
- ・県内市町村の子ども読書活動推進計画の策定率が低い。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・読書習慣の定着は就学前から行うことが有効であるが、男性を含む大人が未就学児に対し行う絵本読み聞かせや親子読書の効果について、十分周知されていない。
- ・子ども読書推進計画の策定は、法律上は義務規定ではなく、努力規定に留まっている。

③原因を解消するための「課題」

- ・各種広報媒体の活用や、関係機関との連携により、未就学児の保護者に対し、絵本の読み聞かせや親子読書の普及を図る必要がある。
- ・未策定市町村に対して、子ども読書活動推進の趣旨を粘り強く伝え、策定するよう働きかける必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・子どもの読書習慣の定着を図るため、市町村のイベントや未就学児の保護者が集まる機会等を利用して、男性を含む保護者等に向けて、継続的に親子読書を推進する広報活動を行う。
- ・引き続き、市町村担当課や市町村立図書館の職員が参加する各種説明会・会合等の機会をとらえて、子ども読書活動推進計画の策定及び読書普及の推進等について働きかける。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）